

令和6年度 第2回愛知県生涯学習審議会会議録

1 開催期日

令和7年2月14日（金）午後1時00分から午後2時20分まで

2 場 所

愛知県議会議事堂1階 ラウンジ

3 出席した委員の氏名 16名

鵜飼宏成、大川千恵子、大村恵、大脇匡人、近藤博子、永田千佳、中村竜彦、
成瀬幸雄、根本二郎、野尻紀恵、彦坂永利子、藤井和久、益川浩一、宮崎初美、
山口喜久枝、山本由佳

4 欠席した委員の氏名 2名

池田紀代美、是住久美子

5 会議に付した事項

議 題

- (1) 社会教育士の活用について
- (2) 愛知県生涯学習推進計画の愛知県教育振興基本計画への統合について
- (3) その他

6 会議の経過

- 会議録署名人の指名
会長から鵜飼委員と藤井委員を署名人に指名
- 社会教育士の活用に向けた愛知県教育委員会の取組について
事務局から説明、質疑応答は別紙のとおり
- 愛知県生涯学習推進計画の愛知県教育振興基本計画への統合について
事務局から説明、質疑応答は別紙のとおり
- その他
別紙のとおり

【社会教育士の活用について(資料1, 1-2)】

- ： 社会教育士養成課程の受講者の方にチラシを配布することについて、放送大学でも該当する学生が一定数いますが、連絡を取る方法は難しいです。

愛知教育大学を始めとする該当校へ、実際に現場に行ってチラシを配布する、あるいは、大学の教員にチラシを配布依頼するということが、放送大学でもその種のことができるか検討しています。

現状、放送大学は放送通信制のため、全国に居住する学生が受講します。放送大学が持っている情報の中で、愛知県在住の方や近隣に在住する方を選び出し、その方に御案内を送るということは技術的には可能ですが、入学時にそのような目的に情報を使うということは、同意を得ておりませんので、難しいかと思います。

スクーリングであればチラシを配ることはできますが、通信制なので、どういうことができるか、まだ考えていません。

見てくださるのかどうかは分かりませんが、ホームページに掲載する程度のことはできるかと思っております。検討させていただきます。

- ： 今回の調査について、大学の養成過程の方への調査が実施できなかった理由としまして、調査依頼をした大学からも、同じ理由の回答で、アンケート調査を送付する同意を得ていないという問題でした。

スクーリングにつきましては、チラシの配布を御願います、もしくは直接伺ってお配りする形になります。

放送大学にも御協力いただけるのであれば、御願いたいと思っておりますので、方法等をご相談させていただければと思います。

- ： 愛知教育大学で、卒業生あるいは現役の学生に対する情報提供ができないかという相談もしましたが、連絡先が分かっている、使い方の合意が形成されていないと難しいということでした。今後、卒業生に対して、情報を送ることを卒業時に聞いてはどうかを議論しているところです。

今回の調査に協力できなくて非常に申し訳なかったと思っています。それだけ大学で養成する社会教育士の方と繋がることの難しさはよく分かりました。同時に、だからこそ、県でネットワークあるいは登録制度を御検討いただくことは非常に意味があることだと思っております。

先ほどの御報告にもあったように、交流の機会が非常に狭くなっていきます。同窓会的な繋がり、年々弱くなっていきますので、それを放っておくとバラバラになってしまうということは予想できます。

愛知県、あるいは生涯学習推進センター等が、事務局になっていた

だき、ネットワーク作りを御検討いただけると良いと思っています。

- ： 学びネットあいちへのアクセス、アクセスエリアなど、アクセスログの分析をされていますか。このホームページにおいて色々と情報発信をすることが、どれだけの効果を持つのかというところの現状分析と課題感について、御質問させてください。

- ： アクセス数については、年間 13 万件ぐらいです。トップページへのアクセス数の調査を取っております。

アクセス数は多くはないですが、社会・生涯学習に関心を持つ方が見ていただいているという認識でおります。社会教育士の情報にアクセスしやすいようにするかについては、これからの課題と思っております。

- ： ランディングページに何分何秒滞在しているかの情報も分かると思います。ホームページのどこに、どこから入ってきたのかという情報もアクセスログ解析で分かります。その中からどこから移動してきたかということも情報があるはずですので、その分析を踏まえながら、より効果的な情報発信を考えた方がいいと思います。年代によりますが、facebook、もしくはそれ以外のより効果的な SNS と絡みながらの情報発信をしないと、情報はあるが繋がらないということにもなってしまうかも知れませんので、その点だけ、もう一度分析をされることが大切かなと思います。

- ： 学びネットあいちだけでは、アクセスを伸ばすことができないということもありますので、学びネットあいちそのものに、いかにアクセスしてもらえるのか、この社会教育士のことだけに限らず、学びネットあいちそのものを振興していくためにも分析は必要と考えます。

また、SNS につきましても、県の LINE アカウントはありますが、県全体で 1 つのアカウントを使っている関係上、頻繁に送れない状況です。行事予定、お知らせ等 LINE で送信希望を出していますが、全庁での要望件数が多く、件数が予定数オーバーで送れませんかという回答があるのが現状です。媒体については検討していきます。

- ： 「社会教育士」と検索してヒットするような、ウェブページを是非作っていただきたいと思います。

現状でも、都道府県によっては、社会教育士のページが出てくる県もあります。愛知県のページでも社会教育士について出てくるような、ホームページの作り方を検討いただければと思います。

- ： 結果を受けての対応案も適切なものかなと思いました。ぜひ、交流の機会も、色々と難しい面はあるかと思いますが、やっていただけると良いと思います。

同窓会的に色んな方が集まる機会は非常に重要だと思います。特に

対面で定期的集まるような会が毎年度あれば、ネットワークの広がりも出てくると思いますので、是非、やっていただければと思いました。

個人情報の扱いとの関連での調査の難しさについては、県からの調査依頼であった forms を使った回答なので、難しかったということでしょうか。例えば、大学から学生に向かって「こういう依頼があって、県から依頼があって、こういう調査がある」という形で、大学から学生に依頼をすることはできる気がします、大学の負担は増えると思います。今回は直接 forms に回答をする形であり、県からの依頼だからでしょうか。

- ： 「県から調査を御願いしたいが、回答をいただけるでしょうか。」と大学から、受講者へ問い合わせをし、同意させることは可能だと思います。手間を踏まないとダメですね。御願いをした場合に、これは私の個人的な経験のため、あまり参考にならないかもしれませんが、あまり協力は得られなかったです。

趣旨等についても丁寧に説明しないとダメだと思います。一体何の趣旨で、そういうことをするのかを長々と書くことで、それだけで読んでくれないという状況です。検討を要するところではあります。

大学が手間をかけてくれるかどうか微妙なところではあります。御願いでしかないと思います。

- ： 大学生に対しての情報提供はできますが、今回の場合は、卒業しないと社会教育士の資格が取れませんので、大学生に伝えてもあまり意味がなかったということになります。

卒業生に対する連絡は、アドレス等の使用許可の確認ができていなかったで、できなかったということになります。

- ： 在学中に資格を取る学生もいます。岐阜大学は、必要単位数を取得した者に対して、履修証明的なものを出していますので、どの学生が取得しているかを把握できます。学生たちが同じ講義を選択し、講義内容が社会教育士はワークショップ等があるため、講義を通じて顔見知りや仲間になることがあります。そのため、教員とも何度も同じ講義で一緒になり、繋がりが自然とできています。大学生に対しては、大学を通じればできるかなと感触を持っていました。

今年、社会教育士の資格を取ろうと頑張っている学生や、社会教育士の資格を取った学生たちが、卒業する 4 年生の追いコンをやるのですが、同じ講義を受ける子でネットワークができていますので、特に大学生に対しては、大学の負担や手続きはあるかもしれませんが、できないことはないかなという感触もあります。

- ： 岐阜大学は、社会教育士を取る学生は、登録制か何かでしょうか。

- ： 登録制ではないのですが、資格取得をした証明は出してますので、その時に分かります。あと、3人の教員が担当しており、学生が同じ講義を取っているようなこともあるので、教員と学生の間でも顔見知りの関係ができています。
- ： 私立大学は登録制を取っている大学が多いので、比較的把握しやすいと思います。愛知教育大学は登録制を取っておらず、卒業時でないと資格取得を確認していません。そのため、卒業後でないと、わからないという問題がありました。

市町村との繋がりを今回は追求できなかったのですが、今後、何らかの形で、市町村でどう活用していくのか検討をしていただきたいと思います。登録制度まで出来れば、市町村への情報提供もできるようになるので、まずは登録制度を作っていくことが第一だと思っています。

【愛知県生涯学習推進計画の愛知県教育振興基本計画への統合について（案）（資料2）】

- ： この教育振興基本計画の中に合体されるということに伴って、例えば紙面の構成や目次構成は、どのように記載されるのでしょうか。読み手にとって、関連性が分かりやすく構成されるということが非常に大切だと思っております。どのように総合計画と総戦略が位置ついていくのか、さらに、KPI がどのように設定されていく必要が出てくるのか、全面的な見直しに発展することがあるため、今回、統合するということだけを理解しておけばよいのか、あるいは、今後何か変えなければいけないあるいは、見直さなければいけないのか、どのように予想されるのか、そういった点について、教えていただければと思います。
- ： 基本的には、統合すると理解していただければいいかと思います。第四次計画の中の1つの取り組みの基本的な方針のところ、生涯学習の取り組みという形でまとめているので、基本的には、この生涯学習の計画と整合を取って今後、まずは作って、生涯学習の推進のための教育を担っていくという風に考えていただければ結構かなと思ってます。
- ： 時代の流れということで、統合することについては、そういうことだろうなと理解をいたします。
- 生涯学習審議会の位置付けですが、生涯学習推進計画に基づく進捗管理的な役割も担っているかなと思っていますが、この審議会の位置付け、今後のあり方については、何か変わるところ等があれば教えてください。
- ： 現在、この生涯学習審議会そのものにつきまして、縮小や廃止などは考えておりません。
- こちらの位置付けは、愛知県の生涯学習の振興のための施策の推進体制の整備、整理ということで置いておりますので、必ずしも計画が、その個別の計画がなかったとしてもこの審議会を続けてまいります。統合後も、計画に定める事業とか生涯学習の推進につきまして、こちらでお諮りしたり、振興につきまして御報告するという形で続けさせていただければと考えております。
- ： この計画を策定するときに、この審議会の役割については、何かございますか。
- ： 来年度、教育振興基本計画を策定する段階で、生涯学習に関する部分については、こちらの審議会でお諮りして、内容の御確認、御意見を伺うような形で進めていきたいと思っております。

【その他 (資料参考)】

- ： 自分の勉強のために、可能であれば教えていただきたいのですが、先ほど御説明いただいた 3 ページの新規事業の中に、1 番上の「豊かな人間性と生きる力を育む学校教育・仕組みづくりの充実」で、校内教育支援センター支援員の補助といったものが出ておりますが、愛知県は校内教育支援センターが普及しているものなのでしょうか。
- 校外で作られているのは結構あると思いますが、もしお分かりでしたら。僕の勉強のためなのですが、教えていただければありがたいです。
- ： 現在、5 つ教育事務所ごとの 5 つの地域、5 つの市町村にモデル事業として校内の支援センターを置いています。先生たちにとっても生徒にとっても効果があるということで、来年度からは、校内教育支援センターに置きたい市町村に対して補助する制度に切り替える新規事業を開始します。
- 市町村が独自で置いてるところもあるので、校内の支援センターは少しずつ進んできている状況であります。
- ： ニュースで拝見いたしましたが、新しく置くところへの補助ということで、既に置いているところに補助はないのでしょうか。
- ： 今、国から言われているのは、新たに支援員を配置、設置するところで補助するというでしか聞いていない状況です。もう少しすると、また詳しいこととかが出てくるかと思いますので、そういったところも今注視しているような状況でございます。
- ： 岡崎市の方で、その取り組みを聞いていますが、広げたいということで、進められています。新たに始めるところへの支援があることは良いと思いますが、今まで 1 校しかなかったが、2 校、3 校と広げたいとか、そういったことに対しても、何か支援があった方がいいと思いました。御検討いただければありがたいと思います。
- ： 国の補助金を使いながらやっていく事業でございますので、国の方の仕組みがどういう風になってくるかを確認しながら進めていきたいと思っております。

署名者氏名

署名者氏名
